



平成30年12月4日(火)



つつじが丘小学校
学校だより

つつじ

昭島市立つつじが丘小学校長 上田 祥市



子供たちの目が輝く時

校長 上田 祥市

晩秋の陽射しに木々の黄色や紅の葉っぱがきらきらと輝いています。いよいよ師走、今年もあと1か月となりました。

先日の本校第2回のアートフェスティバルでは、たくさんの方にご来場いただき、誠にありがとうございました。

アートフェスティバルは、旧つつじが丘南小の「ツナンショ祭り」と旧つつじが丘北小の「つくりタイム・あそびタイム」を融合した本校独自の文化的行事です。いわゆる展覧会ではなく、図工の時間に作った個人作品と「教室大変身」と銘打ったクラスごとの空間アートで校舎全体をまるごとアートの世界にしてしまう2日間の祭りです。

これまでの展覧会のイメージで観ると、違和感や物足りなさを感じた方もいたかもしれません。しかし、私たちは子供たちの発想と実行力を信じ、自立と協力の経験としてこの行事を位置付け、子供たちのチャレンジを応援してきました。アートフェス実行委員会を発足し、各クラスの実行委員を中心に「教室変身大作戦」の話し合いを重ね、アイデアを練り上げながら制作を進めてきたのです。

「わくわく」が止まらない時、「夢中」になっている時、「やる気」に満ちている時、人は目をきらきらと輝かせます。当日の子供たちの目は、まさに輝く目をしていました。

話し合いがなかなかまとまらず、一人一人が折り合いをどうつけるか悩んだことも、制作途中にぶつかって言い合いになってしまったことも、困難な場面にぶつかり解決方法をみんなで考えたことも、全部乗り越えて当日を迎えたからこそ、子供たちの目がきらきらと輝いたのだと思います。私たちは、そこに教育の意義があると考えます。



アートフェスティバルに来ていただいた方々には、地域・保護者の皆さん、他地区の教育関係者のほかに、卒業生である中学生もたくさんいました。2年前の自分たちの時を

思い出しながら、嬉しそうに校舎中を観て回っていました。その中に、前回実行委員長を務めてくれた生徒もいて、今回の実行委員長にメッセージを書いてくれました。

「どのクラスも工夫されていて感心しました。実行委員長お疲れ様でした。こんな経験をしたことは中学校でも必ず役に立つので大切にしてください。」

小中のつながりが自然に生まれてきています。

